

新編

金銀万能丸



下

金沢万能丸

卷下

月端



只誠藏



一生れがくろ音^ち局^くかな

子
 親^ヤの
 物^メは
 所

一
世セ間かんちぢのの高たかひひは

包々子の石火乃夕

す處の池ともの人よよく酒を飲よ
さく及そ處一泉乃ちちうみくとも
かやれ信をに信る人移る岡山に
池ありそをむくことよく念
仏あるを即ちよく人よこれぬさく
く金の威光切信れあうことよく
よ似せけるなよかやうなりよく
何りよくちぢへん金をもよくめく
楽世界もたらさうあゝ貧乏を人よ
樂よ入ともやうく信をきあうく

をひめされぬべしとよくふさく
此處の大寺も金のさきありと
かき中にお客ひける人よ
もあきなりありぬこのもき
信る人よ信をきとよく人よ
かき何り多しとよく人よ
いさめる大におれどお客あゆ
てあり信る人よ信をき一首に
らぬくあげきとよく人よ
やあうく信をきとよく人よ

すくぬの流ともの人よよく酒をくみよ
さくたき屋敷一室乃ちちやみくとも
かやうに信をに信へる移る閑山に
流るるをそむくことよく念
仏あを即ちようへるこれぬさ
く金の威光切信れあうことよく
よ似せけるなよかやうなりよく
何りよくちやへる金をもよく好む極
楽世界もよくあふ金をもよく極
楽よ入ともやうく信をききあうく
すくぬの流ともの人よよく酒をくみよ

をひめされぬべしとよくくみよ
仏殿の太やも金のさきあうありと
かやうに信をに信へる移る閑山に
流るるをそむくことよく念
仏あを即ちようへるこれぬさ
く金の威光切信れあうことよく
よ似せけるなよかやうなりよく
何りよくちやへる金をもよく好む極
楽世界もよくあふ金をもよく極
楽よ入ともやうく信をききあうく

どりあふれあふべし人よ對ひいそぐ
つせうとてふべきやうなとて東の東より
一所にあり能く海を渡すもめあふてかた
城とて黄令^{わうけい}を面^{めん}投^たとてせをきけるが
みか人との金銀は月がくれくあふあ
まとももあふてでも用ふたあふあ
かへば是れをある事也使ふに
し用ひますしければ家よあふせん人婦
よせんとうなひくるおやまのう
僧^{そう}性^{じやう}よき人せふあふてあれともめふ

又らどいひもあふ乃ちのそ人よひとて
これむとくくひれうき世の人よあふと
いへば人の大にがらひぞしける
あふとてこのまはれははれ
あふといひくるはあふ町人とも
あふの山まうとけるが中
太ちとあふみあふてあふて
世のやれ山あふてあふて
あふてあふてあふてあふて
あふてあふてあふてあふて
あふてあふてあふてあふて

一乃袋屋どのや。な無ハと。よりと。も
よく。我^{わが}也^や山^{やま}たり。けると。く。い。ろ。く
の。も。く。お。い。ど。も。あ。あ。き。と。と。あ。あ。き。
此^こ以^も千^{せん}余^よの人^の能^よい。ま。先^まか。う。ぬ。ぬ。り
た。る。す。ぎ。う。と。け。さ。く。お。お。ひ。た。ま。ひ。け
ん。い。れ。と。お。き。人^{ひと}と。も。の。お。の。こ。に。あ。き。
は。り。あ。せ。る。た。ら。う。を。さ。く。た。り。さ。る。が
袋^{ふくろ}屋^やより。も。下^かだ。よ。は。き。さ。く。た。り。一。袋^{ふくろ}
あ。う。ど。乃^{なり}法^{ほう}中^{ちゅう}あ。あ。ひ。て。よく。た。の。や。り
あ。う。と。だ。り。あ。ひ。ひ。く。さ。の。も。れ。と。く。あ。

と。か。う。一。の。な。無。お。ひ。け。る。も。た。れ。人^{ひと}と。
あ。う。い。ど。も。あ。お。さ。は。一。ふ。乃^{なり}あ。う。一。袋^{ふくろ}
う。ぶ。き。人^{ひと}の。お。ら。う。へ。た。ま。ひ。一。人^{ひと}あ。る。べ
し。か。る。今^{いま}の。う。き。世^よお。け。れ。ぬ。ひ。く。人^{ひと}
乃^{なり}も。ら。ひ。ぬ。す。り。起^{おこ}る。よ。あ。あ。た。ま。ひ。
う。う。と。あ。り。れ。と。お。お。ひ。あ。と。ん。う。う。
う。う。く。か。

も。も。た。う。き。人^{ひと}さ。に。人^{ひと}が。も。ら。ひ。ぬ。と。
あ。う。う。の。世^よと。か。の。う。き。け。と。も。
け。お。き。う。く。な。無^むの。あ。あ。今^{いま}の。世^よあ。あ。ひ。

る。ゆゑに、よてくさうあつた。えんふいや。
きもの^{ちぎ}が、知りをもあはれもものなり。
と切^{きり}あけて、いあうぬらごあわな金銀を
まぶすとろふあつた。むとくか店をさへ
これにせしや。あつた。あり。河内には
^{たりや}
あつた。里小あつた。百姓あり。武原を
うしろのあつた。もさうむ。作ははる。
あつた。地からなり。乃よりふ。そのある
まひ。そのもの百姓。はい。そを久む。あ
しむ。しにかつ。それなり。それ人。

杉外しげにさへふくむとてふをしるやど
 一志いちにぬきまをのりける上和田かみわだのふり
 た徳とくつとせひひる上和田かみわだと名ふも
 河内かみわだの友氏ともぢに應氏おうえあて同ふ上和田かみわだ乃
 嫡ちやく氏ぢあうある神かみもくあるが世せ倍ばい若わか
 一とくさきに侍さむらいとてふはらぬとてふと
 くさんぬる事乃比津ひつのふ佐吉さきちに神かみを
 津つ島しま山やま度どふかりあるかてふ河内かみわだ
 上和田かみわだに嫡ちやく領りやう世せふとれくむるける
 地のありれあるありさへふく被ひ皮くわのゆり

二

正乃ものおどのやーあひきるとかうけ
れい^{いさけ}島山あつれよおやーくむ人とうあ
あさけをうけ給ひあるところおの面
性の上^{えん}和田の八島を渡つ方とておのれ
ろうちあき地^{さき}ぬ乃とりつぎにくお軍
家乃山^サ里^サ此百人^サ旅よめーくくられき
とて路よけ百姓上^{うん}和田^{いん}おあひきるゝ家
ううよ今と^サ此のいよくあき上^サ和田^サの嫡
領^{れう}よあるうへい^サ島山乃うらふありぬる
嫡^{ちやく}傳^{でん}の上^サ和田^サと^サ庶^{しやく}流^{りう}よせんや^サ徳^{とく}人^{じん}よあ

く事とよせひひきるやうに世とよあ上
和田の嫡^{ちやく}領^{りやう}よ山^サ里^サ乃百人^サ旅^サ此^サうらあき人
い^サ我^サそれあき島山の^サ杖^{ちやく}持^ちー^サ傳^{でん}る^サと^サ庶^{しやく}
流^{りう}あきとあきとひひきるやうに島山の
上^サ和田^サうらあき^サや^サおあひあき^サ道^{みち}世^よー^サて
る^サ聖^{せい}山^{さん}ふの^サや^サり^サた^サれ^サと^サひ^サく^サうき世の
人^サと^サう^サぬ^サ持^ちと^サひ^サき^サと^サや^サり^サける
や^サと^サい^サの^サ百^サ姓^サ上^サ和田^サ自^サか^サ一^サ乃^サ上^サ和田^サふ
ありける^サう^サき^サと^サと^サく^サみ^サれ^サと^サあ^サく^サ
うき世の人乃とりあきと^サ徳^{とく}性^{せい}と^サみ^サあ

金銀の物ありはとていふ中物を
一処上人もまゝにた無がうとてこれとく
あまあるまゝきくらありとてあまみ
りきるが目とこれわりのくその物とま
中といふと一處おとまり傳ねあられを
やどたらむとて人々伊勢と^{あふこ}を江のさうひ
川ふはきさるゝ中物のさうひきるを
まぐ物とてりふと目のならるれとをき
と^{まて}船のさうれあ川とてさうおれ
くありふとく物とてり一傳ねとあ

りふはのひとてれ山よあさう一
まありとて一處乃人よとていふ人は
いふひあふのまゝ今も氏子の中ふ
^{あふき}あまあるものあまとてちうきさる古田
後ふ一^ま正一位大明神ふありたまふとて
へん中物のさうひきるをこれといふやうか
るは神おはさういありとて正一位はさうけ
られきるとのさうひきるをこれとて一處れ考
るは海のさういふさうだる氏子が金をとれ
るは海へよ正一位ふありたまひぬといふ

中納のこまひたるはげやどな無きや
 かりありむとありきれなむ無きいさるえ
 なりなり廣のこりなりか何なりとくみ
 かうのうき世となくありけむぬゆ
 へありとうれむ性子のいさくこふ
 無きひしやありありぬきあり世の
 かりなりやまひさるみあくとあきなりぬ
 抱ありとひんむな無きなりいさなり金
 あくかりなるものありそのきさいえん
 まんよりき大名^{ミヤウキ}貴人なりなりひん

う海のをよぶきそえ伝^{デン}神をいのり世^セ界^{カイ}
 のあるやうーあるころを法^{ホウ}くー天命^{テンメイ}
 ぎりはきく死^シなりふれと人界^{ニンカイ}一世^{一世}の
 生^ナのかきなりといふきくひなりーく貧^{ヒン}ある
 ものこきづひさくありなりとあしと
 まるこあきぬええせせのるべきこと
 と大なりなりいのりありむと命^{メイ}れかきなりと
 みさことありありと大^{ダイ}罪^{ズイ}のれなりなり
 のむきなりなりとあきなりとびくなり
 とやうく用^{ヨウ}ひぬるなりとふ大名^{ミヤウキ}の非^ヒ業^{ギョウ}

乃死よしくゆのられ驚うりをもんる人
人をもりいれ金銀のたふもととつは
あゝどやといふ人へもそが精學小
も精進も又殊^{たが}をとりびがうとくへ
に無^たひひるる人へは親^{おや}とつは
とと母とあはれはよくありゆと
と今^{いま}の世に鉄^{てつ}をたふと鉄をふと
一鉄^{てつ}をと母と一ゆるゆへ人るは
ととあかくゆるどく人る乃よき友を
ととあたまへるうき世ともあはれかーと

おもふあり一如上人のいづくにまはれは
いづくあれども徳^{とく}乃^{なり}建^{たて}工^{くわう}の上^{うへ}に
と今^{いま}もあありとくともあう奴^{やつ}ものありと
ありたれむに無きつくせれさういと
やまきり目^め中^{ちゆう}一乃^{なり}はあくもまづ
起^{おこ}上^{うへ}の^もを金^{かね}銀^{ぎん}をほりくはうーや
ひたふ^{あう}る^{うけ}家^け乃^{なり}はそみよはさるひとく
それむあまはあゝびあきよまと世の
人ともへるなりこれづ世のあま
にゆきやみか今^{いま}のあまともあふあ

むやといへむ上人のこまひーかまこ
に^{きん}金無のき金これ金とありー
うむ金無のき金これ金とありー
うむ金無のき金これ金とありー
む上人ゆきこことむれふにありたる
とこふ金無のき金これ金とありー
む金無のき金これ金とありー
孔けむにといへむ人こ一理きこえ侍る
とこふ金無のき金これ金とありー
金銀無のき金これ金とありー

かひのちうになむまどきありたる
金無のき金これ金とありー
とこふ金無のき金これ金とありー
くふひちりたる人上より下はつる
まどふ人こ一理きこえ侍る
味^{あじ}うむ金無のき金これ金とありー
ひちりたる人こ一理きこえ侍る
金無のき金これ金とありー
たき金無のき金これ金とありー
金無のき金これ金とありー

まへとかくうき世のもくあすたう
 ものみか今もあわたかハ印のれよ
 くきあて城ううとくも是のん
 やきとむひのく人むああると善人
 とく伝を利生（ききう）のあるを月ひるを注
 れあるをううとくくゆるをよそれ
 とかくあうひるをああるとくき世だ
 ううとするあへんうかうとくく今
 うき世うとむく人々とありそれ中ね
 中うきひるを無うこの印どみあうり

月とさるうあううくていとねも
 ちううううう小徳人のんあふ乃
 みちちひつううもくもとむるこま
 ろくゆる城あふとくゆるあむ人のん
 うくあやうべんやる無きくく釋（しやく）此れ
 年うもあふ乃をきくもくもくま
 のうらふ天下の人あううあかふあ
 やういあう人さうりあう中ねあやつ如上
 人ああうあうあうあう又それが
 ーうううあもあうやうさうあう天下

我ちろゝ一先と諸人のつゝのみをさふ
ありしそのみゆハを逢天下の人あやめ
乃をそのめむむさきやあらきは
うりあゝぐいむりよりあゝあゝに
うもくれあゝうもさあさきうとり
くふふ平五つらもぐくはぐさるつらよ
あうはむもさるさるやどに今む
乃ごごくよむささきと白くうりよ又
あうさやうのねれおごふ人のこのみ
よささひくはものこのむごくふと

人る人ぞん乃よきとともめが聖人賢
人月と目くふあ家ふ出べーあげうき
ふむりより人ともむむる時我あは
中おきてなまひは無がこのはれこの
わさうもいやくゆるぎれためく
なきうさうあとのうまへむ性あぐい
むりよりむりうーも天竺もよき人
とこのめども人のうりはあふよくあらず
上人の法をさあひよるうとあくと
おれはーみあくハ今もむりーとめく

たぐわたり——まさうんとつふぬきういふく
これもういふくあるうりありよの法はく
——みまぐもあくはまひ天下の人にお
やふ孝なるもの君ふ忠あるもの友は
——とあるもの徳義ふやくんをいれま
ふふものゆあくもむ下れ人のためようあ
——きものたとへばま——ありともま
あ——んも乃これあくむそのあせれ人と
——てえらうい地なりなりあへ——よよその人
くふより禄とく——たまふぬきよう——

ありふれつりゝあむたふんばあふのこ
 りありきものもたやよる孝れふも石
 忠乃ものもむくふあふみく浪来く
 ふ人のこゝろよくありあふむも賢者
 あまこいごきんとあむたふんとく
 きふくあふりきてくくあふくゆる
 くれぐれ人の縁をむさぼるうき世
 ふれむ縁ふめぐれんあふす
 地ふ入るきあふりふんかふりたまふ
 ああーうむるあふくふのあふさ

る法ありまうりたるふささくくうとま
しきやとる法あり我の名ハハが
し都ちきさ大必乃あるしれみ世おち
あきくト人一人あしれくおの法
へたししきるま^{あを}法^{さふみ}とも二三人出あひま
く法まうりいめの法あハう人の法ありそ
れとりこみあきくしむがさひくはまうり
く^法対^{たい}面^{めん}あるべしとひひきるとそ
ふ京の町人小平^{ひら}雪^{ゆき}屋^やの法たあつとそ
る^う法^はあるもの人あきくめしぐさ

のさげ物もさせさうきるふ^{こん}廣^{くわう}上人^{じんと}
ちしきくきそくよく法まうりあそ
ひあひご^ま毎^{まい}の法あも作^しされきるあ
く法とりくしきとととりおくに
しれ^し法^はあるもの無もたりしし月の
ち法くまうりきるびありさ法をさく
かきくようし金のうき世とふあしれど
かる法あきさびくさうりさしおしき
人のあるまひさうり法さうりおしき
おの法あきとまうりさきさきさき

かゝりたる中にお安なまひをせうひ
やうふ時の威勢いせいにほたるうき世うまれふせ
るるやゆふとはさすきやう乃とふ
くよらむふをいさすむる撫へり
うき世をのれ山莊ざうふひきこもりゆる
あやとやういふへい如上人のいづくや
うに人のいふやうくよとすまふ
くゆるといふゆるんとすへ中お
のこまひたるも後ふいよく人こゆる
ふくありもよくゆきむりより

名あるものおとろへる名をわく
太社たいやとわくへるもあき邪神がたえの社やしろは
さへくき殿下のちり成とりおやを
うりふとさうり上下のさうちあ
時ふあつるを君きみとす人のひひり
ふよらむとありくまことある人おとろ
へりつあるやうふものもさへたて
無むきひりやうふ金銀きんぎんよきとまり
吾君われきみふとといふれ目なと南蠻なんばんふ
のこくふりうきおきさるをたひ

とみ知^ちる^ちはかま^まり^りむ^むただあ^あめ^めも
く^くれて^ても利^リ欲^欲のさ^さこのと^とあ^あく^く一^一世^世著^著
一^一は^はゆ^ゆん^んは^はお^おき^きま^まる^るひ^ひかり^り人^人と
い^いむ^むお^おも^もひ^ひ給^給ひ^ひぬ^ぬる^るや^やあ^あは^はか^かや^やに^に人^人
の^のこ^こは^はれ^れ畜^ち類^るお^おた^たか^かく^くあり^りゆ^ゆと
いた^{いた}む^むと^と神^{かみ}明^{めい}へ^への^のり^り一^一さ^さむ^むと^との^のま^ま
い^いぬ^ぬれ^れは^はその^{その}時^{とき}毎^{まい}ぐ^ぐい^いく^くゆ^ゆと^とい^いり^り
た^たま^まふ^ふと^とも^もた^たり^りあ^あり^りゆ^ゆや^やに^にう^うき^き世^せ
此^こ人^{にん}こ^こは^はよく^{よく}あ^あり^り海^{うみ}ぐ^ぐい^いく^くあ^あき^きい^いは^は誠^{まこと}
を^を人^{にん}よ^よも^もと^とあ^あく^くの^のら^ら神^{かみ}明^{めい}よ^よと^とも^もた^たれ

バ^バか^かあ^あく^くむ^むあ^ある^るもの^{もの}あり^り人^{にん}よ^よな^なく^く一^一
く^く神^{かみ}明^{めい}ふ^ふも^もと^とむ^むる^るに^にお^おり^りと^とい^いふ^ふ
中^なか^かあ^あり^りた^たま^まい^いや^やさ^さ一^一乃^のに^にま^まが^がこ^こは^は
ざ^ざ一^一や^やと^とほ^ほめ^めこ^こも^もい^いく^く人^{にん}と^とあ^あめ^めゆ^ゆく^く
伊^い勢^せか^かれ^れ必^{かならず}に^にお^おり^りと^とい^いふ^ふは^はは^はき^きく^く
や^やと^とい^いふ^ふと^とあ^あり^りぬ^ぬ性^{せい}子^しぐ^ぐい^いく^くま^まと^とい^いふ^ふ
と^とあ^あめ^めの^のあ^あき^きあ^あげ^げく^くゆ^ゆと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふ
く^くき^きく^くの^のあ^あめ^めれ^れ人^{にん}と^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふ
乃^の父^ふと^と母^ぼと^との^のこ^この^の神^{かみ}あ^あれ^れと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふ
あ^あり^りと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふ

糸乃人々くくぐの祓ひぬ就一
てくかへんといへば中おのこまひ
けるもくが神めかみなのごとくにくた
りしきしれあきとむへばありな
とくしきとむへばありなとく
川もまこととむへばありなとく
つしきとむへばありなとく
とむへばありなとく
あきとむへばありなとく
ありなとく

かきとく川乃きとく
たひ乃けれとく
つきけるもく
おきけるもく
みか金の神
といへば中
りかきとく
くあきとく
のくひけれ
あきとく

くはよせぬ法多とがひくらげたまは
まゆれどもうぬじむうはさても
あゝめさふく今かみの世ふあり
ゆへに神主ふ神候候ふ十銭め
どつりーぬれ神あはさくをきぬ
もいあの内はまぐいれりありと
いへ中おきてたまひあうもいた
るが神候ハ僧尼のまごこといみたまひ
くふき神候此あさいあり候法のみ
とありそけ神祇とあはせよとあり

はまう今にくよゆげありけりといふ
しと神明乃まへもえかふりといふ
それば無きといふも今ふくあ家
乃神あへるありやとやまなふ
かあといふとゆより一つみとり
うし一妙上人と姓子とけり等とえ
乃法信候あく木りくる神前へ
あえくたふとて法師乃あふり
しそれば信心の法具なりといふ
中お度とバ陽離此はとりになき

三人の人々を招^うねきさるるおとこともか
ひく神あちくゆきく接^つ祝^{いのち}を
とあきまのこくゆきぬ中お殿^{あん}案
おお遠^こてささあそおとくさ
海^{うみ}はなせうちむひいふ殿より四
金^{きん}ゆへさつりゆとひそれ中お殿
一^いおひくおひさる法師^{ほうし}の招^うねきそ
きふとげふうちおとくささるるさ
のささひさるあんなちさるるまやられ
蘇^そ原^{げん}乃中おとしふものあまのびく

系^{けい}文^{ぶん}一^いゆるあまのこさるる僧^{そう}尼^に神
あちくさるるぬあまふ金^{きん}ねあ
一^いゆ一^いお肉^{にく}へられゆるさるるゆ
ふあやまちとといふさるるこの男
のゆさるるあまのむさるるさるる
神^{かみ}あちくはありさるる今^{いま}にさる
小^こ法師^{ほうし}ゆとつへ中おのさるるひさる
やうさるるもあく今^{いま}に依^よてひさる
さるる一^いお金^{きん}ねゆへに招^うね
さるるおとくさるるいさるるその時^{とき}に

ちうきやどにひりくたびのほろれとやま
免ける我々の束は人乃人そふ儀れ
とらゆるたふへハ大肉裏のやうあるあま
押の本えさあげをあひけるうらふ押
の枝ふちうゆふはけはくくき林あり
る。我々のちうあつうをあらふなりける
が家宸殿のやうあるあわりするむれと
れかてくる肉ふたけとき法こゑあてあづ
らうき系信乃もの人ありよくあて
あせとあらせられハ要ゆふくる音ふ二

人あへ中お廣張るしめみかくこあ
へとちうたふ人そく信くくるやどにま
へる肉のていひくくうづかてもみかハ
是のつとえふ後串あへくありその時
そ人の考ふもの人そふむひくあ
あへるのちとびうあるとそあとれ
あひなまひくる我てハ目の神乃た
るあありきく儒釋の二教を
し神明乃肉能張るふひありあが
く新法のころとくあひふれはうた

もとほきるにようりおるこあうにいま
 けあきもせうふうりこくかようのく
 づくーきりてあてく神のつきこああ
 くるれりこあてく神のつきこああ
 きたるへんれけりこあてく神のつきこああ
 もとくくくくくくくくくくくくくくく
 のりててのりててのりててのりててのり
 とをのくくくくくくくくくくくくくく
 名あおくくくくくくくくくくくくくく
 後代にきりーあてれあてれあてれあてれ

上人もけしきとみかおあてあてあてあて
 くありかてくおあてくくくくくくくく
 の法ててててててててててててててて
 さききにきりててててててててててて
 神呪とてててててててててててててて
 川此あてれあてれあてれあてれあてれ
 びくちおあてててててててててててて
 かてき法ててててててててててててて
 わてててててててててててててててて
 儒教にきりあててててててててててて

ものごとくあをさる。一都の法にせむ
とあり。一むすからし性子やう筆と
す。この相かりしち。免をうあを
さるもの。都ふ。あてま。山
の中。おれ。山やう底ふ。さる。さ。如上人のい
か。さ。め。ぐ。た。き。さ。と。め。り。さ。う。け。う。の
ま。く。あ。さ。ん。ハ。あ。さ。け。あ。一。目。れ。も。このちう徳
人。ふ。す。め。き。さ。せん。う。さ。や。性。子。ハ。東。家。の
か。さ。く。さ。う。あ。と。一。切。の。人。ふ。ま。免。さ。う
一。め。た。ま。人。ふ。ハ。神。め。れ。う。と。め。ら。り。徳ちう

人乃振こえをさる。す。各にかり。この徳を
あ。さ。一。心。能。ま。と。と。を。さ。る。免。ん。と。く
ろ。人。乃。人。と。東。家。と。神。園。へ。さ。う。あ。て。ま
く。に。さ。く。神。昭。乃。ま。と。と。を。さ。る。め。ける。道
ま。ハ。わ。み。よ。り。り。て。徳。の。う。あ。を。さ。る。一
ける。園。と。に。さ。く。ま。と。と。の。一。ふ。わ。あ。ひ。き
と。人。の。人。さ。る。人。あ。ま。さ。さ。く。き。め。ば。さ
東。山。度。き。さ。う。一。免。一。て。東。家。度。へ。た。う。の
免。ひ。け。れ。む。さ。る。さ。う。い。と。く。この。一。ま。さ。を
さ。う。げ。た。ま。ひ。ぬ。東。山。度。よ。く。え。た。ま。ひ。て

うれハ天下乃人のやみあり世をば
 人哉おさむるれうまめたるもいとく
 川^が清^き電^{でん}哉^やそえられく人^{じん}鏡^{きやう}端^{たん}と
 是^{これ}号^{ごう}一^{いつ}なるひおがり一^{いつ}あるを流^{なが}る
 のおもむきををわくかきふくり人たるひ
 一^{いつ}うむおの世乃大^{おほ}なる志^しと心^{こころ}
 が神^{かみ}屋^やのうらまゝとくその物候^{ものこう}とまに
 一^{いつ}く利^り歟^や乃^なちよひをぬりまゝとん
 の減^{へん}ふりあゝくふきを一^{いつ}人^{ひと}なるよ海^{うみ}
 ぶしてものほろろにうかいさるあわ

ひとふ大^{おほ}樹^{じゆ}乃^な流^{なが}代^{だい}ひくたり
 海^{うみ}さうろく一^{いつ}ありやうろく人^{ひと}なるよ
 ひとふ

ぬるふと世のふとくらぎにやーきが岐の
 る業に世乃すみむづあ哉あるといふ
 中うとあるくらぎに長亭此物の年
 東山の隠羽林巾師ねうが神乃れを
 人ありくるぐものんねあどき哉友を
 あるあるひあやを弘の心流ふ一也人
 とひひーものとは子といふ儒の乃
 ものしね林乃もとになづのゆきて儒
 佛二教をひくうが神乃小對一よも
 てもう編して流るふ根えられを神

[illegible]

あぢくはまの乃人能人あるものゝ
ふとく東よりづれひとに羽林うりんのん
よりおちりぬあはけものごとく我をむ
ものゝあはにれをそむあんのだまけ
うあらんやーきん量がたへ人我ひき
ととーおもくよりわうに人ー
そむものけうそ才我おさむはる乃及おちろ
からんこれ武ぶおろあーとて文ぶんより
よはげあははの業わざとそち行きのと
たぐんの越ふむふとくあふげおちあ

乃をりあふふ葉をかきつる

武林源義政



貞享四年曆二月廿一日

御堂前

榎沢書肆 森田庄太郎板



110X
229
2